

## 長野市総合計画審議会作業部会 会議概要（報告）

|     |                               |  |
|-----|-------------------------------|--|
| 会議名 | 市民フォーラム21 第3回 都市整備部会          |  |
| 日時  | 平成22年11月8日（月）午後3時00分から午後5時00分 |  |
| 会場  | 長野市役所第二庁舎10階会議室19             |  |
| 出席者 | 作業部会員<br>（敬称略）                | 石澤孝、吉田織栄、石井健之、奥野由明、倉島義和、滝澤健太、南澤信之、宮澤修司                                     |
|     | 関係課員                          | 庶務課、交通政策課、障害福祉課、道路課、維持課、住宅課、建築課、建築指導課、都市計画課、区画整理課、まちづくり推進課、駅周辺整備局、企画課（事務局） |

### 会議次第

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 市民フォーラム21 第2回 都市整備部会 会議概要について
- 4 本日の日程等について
- 5 ワークショップ  
（1）ワークショップの進め方について  
（2）ワークショップ  
    テーマ：政策6-1 いきいきと暮らせるまちづくりの推進
- 6 その他  
（1）今後の予定について  
（2）事前課題シートについて（11月29日開催分）
- 7 閉会

### 会議の概要（主な決定事項、質疑等）

- 4 本日の日程等について  
    ワークショップには、当初の予定では参加しないこととしていた専門部会員も参加することが承認され、出席者全員でワークショップを開催することとした。
- 5 ワークショップ  
    テーマ：政策6-1 いきいきと暮らせるまちづくりの推進  
    出席者全員1グループで、ワークショップを実施し、別紙のとおり意見等を発表した。

交通 (移動) 手段

新幹線があるので、東京へのアクセスが容易である。  
高速道路があるので、行動範囲が広い。  
地域内の移動性が十分に確保されていない。  
市内の観光地・オリンピック施設等を巡る交通機関がない。  
環境に適する、安全が確保できる自転車道等が不足している。

街並み 景観

中央通りの善光寺に向かう 世界に二つとない景観を大切にす配慮が感じられない。  
借景まで含めた保全すべき景観に対する、開発行為には、規制措置を講ずる。  
善光寺の門前町であることをもっと前面に出す。  
善光寺の門前町らしく、中央通りの商店街の建物を黒、白色に統一する。  
長野駅から善光寺までの間を、善光寺の参道として整備する。  
松代等で、旧町名の復活に向けた動きがある。  
景観賞を設け、市民にもアピールする取組がされている。  
街並みの保全・景観の統一を図るため、地区としてのルールづくりが必要である。  
看板・広告物に対する自主的な規制が必要である。  
長野市の自然と街並みに調和がない。  
景観に配慮し、用水を活用したまちづくりが必要である。  
「通り」などと点散している文化財を集中・広報し、歩いて楽しめるルートを案内する。  
回遊できる街並みを形成する。  
昔ながらの風情をいかした小路・路地の整備が必要である。

長野地区中心市街地

中心市街地がどこなのか、その範囲が分からない。  
長野駅前A-3地区市街地再開発ビルが、歩道を含め、きれいに完成した。  
TO GO、長野駅前A-3地区、ぱていお大門の再開発事業は成功している。  
中心商店街の活性化と再開発事業が結びついていない。  
長野駅前に若者の集まる場所が少ない。  
若者の集える場所・遊び場等が不足している。  
高齢者の住宅・施設は、市街地の便利な所にシフトする。  
長野駅から善光寺へ向けての中央通りの活性化が必要である。  
中央通りは、シャッター店舗・空きテナントが多く人通り・活気がない。  
まちなかが寂しい状況にあり、特に権堂通りなどが空洞化している。

観光

長野駅から善光寺まで等、観光客に親切でわかりやすいまちづくりが必要である。  
長野駅前に、善光寺までの大きな案内看板を整備する。  
オリンピック施設・跡地に付加価値をつけ、観光等に活用する。  
オリンピックの財産、知名度を活用した、まちづくりが必要である。  
食の素材は良いが、名物・特長のある食べ物が少ないので、A級グルメを目指す。  
人は、食べ物に関心があり集まってくる。

住環境

旧集落等では、道路が狭い未整備である。  
生活道路 (狭い道路) の整備のスピードアップが必要である。  
住居表示により、住宅の位置が分かりやすくなり、日常生活の利便性が向上する。

中心商店街の再生は、今がラストチャンスである。  
まちなかで、空家が多いので、商家の在宅を進める。  
中央通りの空きテナントを利用した街並みキャンパスを実施する。  
長野駅前の空き店舗を若者向けに活用する。  
市の総合窓口を中央通りに設置する。  
中央通りを一般車禁止にし、乗降自由なトロリーバス・チンチン(路面)電車を運行する。  
トロリーバスを長野駅から善光寺まで走らせる。  
人力車を取り入れる。  
貸自転車 (無料) を長野駅前に設置する。  
市街地の活性化にもなる善光寺の南側 (表側) に観光バス等の駐車場がない。  
善光寺の南側 (表側) に駐車場を作り、中央通り経由の善光寺までの導線を整備する。

ユニバーサルデザイン

バリアフリー新法のユニバーサルデザインの趣旨に基づき、社会には障害者・子ども・高齢者も皆が当たり前で生活している意識を持った都市整備が必要である。  
長野駅東西地下通路で、自転車でも、東口から入っても、善光寺口で地上に出れない。  
スムーズな移動の確保が大切である。  
長野駅前周辺のバリアフリーの連続性が悪い。  
民間建築物等を含め、歩道と車道など、建物との段差が多い。  
長野市独自の歩道と車道の段差解消方法 (視覚障害者誘導用ガイド) について、国・県でできるだけ取り入れてもらえるように、アピールする。  
公衆トイレが少ない。  
車椅子等で利用できる公衆トイレを増やすべきである。  
市街地の車道と歩道の区分けを明確にし、歩行者が安全に歩けるようにする。

まちづくりに関すること

長野には、様々な使い方がある。  
長野駅周辺、篠ノ井、松代等、様々な地域があり、長野市全体を見渡した計画策定が必要である。  
長野市をどうしていくのかという、まちのイメージが定まっていない。  
長野市のブランディングが必要である。  
都市計画が現状の後追いになっている。  
まちに関心を持っている市民が少ないのではないか。  
市民が分かりやすい広報が必要である。

土地利用

土地利用のあいまいさが多くみられる。  
中心市街地と住宅地域との住み分けが不明瞭である。  
土地が不整形で土地利用しづらい。  
適切な土地利用のため、土地の公有化が必要である。  
財産権の保障により、土地の公有化は難しい。  
安全・安心を確保するための私権の制限は必要である。